

2020年度 特定演習

教 員 名	飯田 俊郎
演 習 テ ー マ	<p>テーマ「地方消滅と地方創生」</p> <p>「若年女性人口の減少予測」を突破口として全国 896 の自治体の消滅を論じた増田レポートをきっかけに、日本の自治体行政は大きく転換した。</p> <p>お試し移住の受け入れや CCRC（継続的なケア付きの高齢者コミュニティ）の整備、インバウンド誘致、子育てサービスの拡充、婚活イベントの開催、学校統廃合と特色ある高校づくり、ふるさと納税制度の活用など、国が推奨する地方創生の処方箋は増える一方である。</p> <p>その一方、社会学の世界では、単一の人口データから地域社会の消滅を訴え、東京の若返りに協力するよう求める政治的な言論への疑問が募り、そもそも論を展開する姿勢が顕著になっている。この演習ではその議論を検討する。</p>
演 習 内 容 ・ 方 法 等	<p>下記のテキストを講読する（進度に応じてテキストを追加する）。</p> <p>毎回、分担者がレジюмеを作成し、テキストの内容を要約するとともに、自説を展開する。</p> <p><テキスト></p> <p>増田寛也、『地方消滅・東京一極集中が招く人口急減』、2014年、中央公論新社、886円</p> <p>山下祐介、『地方消滅の畏：「増田レポート」と人口減少社会の正体』、2014年、筑摩書房（ちくま新書）、972円</p> <p>増田寛也・河合雅司、『地方消滅と東京老化 日本を再生する8つの提言』、2015年、ビジネス社、1,296円</p> <p>山下祐介・金井利之、『地方創生の正体：なぜ地域政策は失敗するのか』、2015年、筑摩書房（ちくま新書）、972円</p> <p>金子勇、『「地方創生と消滅」の社会学：日本のコミュニティのゆくえ』、2016年、ミネルヴァ書房、3,240円</p>